

8 最適な学習環境をつくろう

学習環境とは

学習環境とは、一人ひとりの生徒を取り囲んでいる全てのことといえます。教室内の明るさ、温度、耳に入ってくる音、机の上の状況、周りの雰囲気、ほかの学習者の動きなどが挙げられます。教員は、生徒が学習に集中できるように、学習環境を最適な状態に保たなければなりません。

授業に集中できる教室

生徒が、注目すべき情報に注目し、落ち着いて活動に取り組めるようにするには、座席の配置、授業に集中することの妨げになる場所に掲示物を貼らないなど環境整備が必要です。「今は何をやる時間なのか」「次にすることは何なのか」が伝わりやすいように、教室環境を整えましょう。

整備された環境が第一歩

清潔な教室、整理整頓されている教室は、とても気持ち良く、居心地の良さを感じます。こうした教室の中では、生徒は落ち着いて生活したり、学習に取り組むことができます。

教員は、生徒の声を聞いたり、生徒の状況を常に観察したりしながら、適切な学習環境がつくられているかどうか、確認することが必要です。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

私物を片付けられない生徒には…

片付けが苦手な生徒には、学校の物品だけではなく、個人の持ち物も「何を」「どこに」しまうか見て分かるようにしておきます。とりあえず1か所にまとめる「何でも収納箱」を机の横に設置するのも一つの方法です。

思いつくまま発言する生徒には…

目に見えた物や、聞こえてくる音・声、教員や級友の言葉が刺激となり、思いついたまま言葉を口にする生徒もいます。発言内容やその意欲を認めつつ、具体的にルールを伝えていきます。

教員も環境の一部

教員の適切な言動も環境づくりの大切な要素です。生徒に理解しやすい説明や指示、適切な発問等ができていたかは、授業の進行に大きく影響します。また、教員の言葉遣いや口癖、表情や態度、雰囲気からも、生徒は様々な情報を学び取っており、価値観や社会的規範などの文化や行動様式を、結果的に身に付けていると言われて

授業の雰囲気づくり

授業を始めるとき、いつもと違う雰囲気を感じる場合があります。前の授業で嫌なことがあったり、休み時間などに友達とトラブルがあったり、あるいは楽しいことがあって気持ちが高ぶっていたりと、様々な状況が考えられます。その際には生徒の気持ちを切り替えさせる工夫が必要です。

生徒の状況に合わせて、例えば、静かに語りかける、一分間目を閉じさせて気持ちを落ち着かせる、生徒の興味のある話をするなどしてみましょう。簡単な学習クイズも有効です。

「居心地が良い」とは・・・

教室は生徒が一日のうちで最も長い時間を過ごす場所です。生活の場としての教室は、居心地の良い場所でなければなりません。

生徒は、安心していられる場所、自分が認められる場所、自分の役割を果たせる場所など、いろいろなときに居心地の良さを感じるでしょう。そのためには、学び合いを通して、互いを認め合える集団をつくる必要があります。生徒が自信をもって自分の考えを発表し合うことのできる場面を設けましょう。

教科の指導と生徒指導の一体化

授業は全ての生徒を対象とした発達支持的生徒指導（教師が授業に参加している生徒の発達を支える働きかけを行うこと）の場となります。自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成を意識した環境づくりが大切です。詳細は「生徒指導提要（改訂版）」で確認しましょう。

→ 3章-6

☆「授業規律」を大切に

最適な学習環境づくりには、「授業規律」や「生徒支援・指導」に関する視点が欠かせません。学校や学年全体で統一ルールを設けている場合がありますので確認しておきましょう。

☆持ち物「基本セット」の徹底を

授業の際に、常に用意させたいものとして、例えば国語科ならば、教科書、ノート、文法書などが考えられます。

持ち物を徹底させることで、教員の授業に対する姿勢が生徒に伝わります。

また、持ち物として生徒に用意させたものは、必ず授業で活用しましょう。

☆「生徒指導提要（改訂版）」とは

小学校段階から高等学校段階までの、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として、文部科学省が作成したものです。

「チャイム着席」の徹底

始業のチャイムと同時に授業を始められるよう、時間どおりに行動することは大切です。授業時間をしっかりと確保し、休み時間と授業のけじめを付けるためにも、休み時間のうちに授業準備を整え、着席することを徹底させましょう。